

キャラクター名	プレイヤー名
星海明煌（ほしみ・アキラ）	

シンドローム	ハヌマーン ブラックドッグ	ワークス	ドライバー	カヴァー	高校生
オプション		年齢	17歳	性別	女
覚醒		衝動	闘争	初期侵食率	16%
出自	疎まれた子	経験	喧嘩と逃走	邂逅	????

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	30
肉体	3	1	0			4	行動値	13
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	13
精神	2	0	0			2	戦闘移動	18
社会	1	0	0			1	全力移動	36

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC			交渉		1
回避			知覚			意志	1		調達		
運転：二輪	4		芸術：			知識：			情報：噂話		1
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
スカードエンジェル		0				
[~99%] 夜を裂く閃光 (シナリオ・70%)	運転	9r+4	@8	21		侵：5→4 / 自身に暴走付与
[100%~] 星天を裂く閃光 (シナリオ・70%)	運転	10r+4	@7	24		侵：5→4 / 自身に暴走付与
[100%+] 届くことないあの輝きへ (シナリオ・70%)	運転	10r+4	@7	53		侵：10→4 / 自身に暴走付与、シナリオ1回

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
(補助) スマートヘルメット	0	4	-1	±0	〈運転〉+2D
		合計装甲：	8	合計回避：	-1

所持品	
ウインドスカーフ	
コネ：噂好きの友人	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリ	消費
神速の担い手	P	N		
祖父：星海武郎	P 感服	N 悔悟		
友人？：朝川菜	P 友情	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	2	残り財産P:	1
--------	---	--------	---

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
スピードスター	1	5	セットアップ	至近	自身	自動	D0イス	
効果：300中、At+【行動値】、R不可								
加速装置	3	2	セットアップ	至近	自身	自動	-	
効果：【行動値】+LV×4								
ヴァジュラ	3	3	セットアップ	至近	自身	自動	リミット	
効果：シーン中、At+LV×3、暴走付与								
鋼の馬	3	2	Xジャー	-	-	〈運転〉	-	
効果：D+LV								
コンセ：ブラックドッグ	2	2	Xジャー	-	-	シンドローム	-	
効果：C-LV (下限7)								
ショート	1							
効果：								
人間発電機	1							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

ごく一般的な家庭の生まれ。父も母も平凡で退屈な人間だった。そんな家が嫌で、私は、たびたび祖父のところへ逃げ込んだ。祖父は元レーサーで、今はバイク専門の修理工。もう歳だっというのに、ボロい店で、ずっとバイクに触ってた。バイクに触ると烈火の如く怒り出すような人だったが、気分のいい時には、自分のバイクと一緒に乗せて走ったりしてくれた。

学校は居心地のいい場所じゃなかった。退屈な奴らばかりで、私はいつの間にかクラスで浮いていた。中学を卒業したら、すぐに祖父の工場に就職するつもりだった。けど、そのことを話すと、祖父はこう言った。「高校の勉強もできないようじゃ、仕事なんか任せられない」と。渋々勉強して、高校に入った。

高校も退屈だったが、祖父を見返すために勉強した。そんな矢先だ――祖父が、事故を起こして死んだのは。平凡な対物事故だった。ハンドルを切り誤って、塀に突っ込んで、首の骨を折って、それで終わり。工場は、潰れることになった。高い機械とか、在庫のパーツとか、誰かの手に渡ったり、捨てられたり。建物は買い手が付かなくて、今も空っぽのまま。私は――私は、頑張る意味を失ってしまった。残ったのは、馬鹿でかい退屈と、値段が付かなかった、祖父の無駄に派手なマシン一台だけ。

――私は、どうしたらいいんだろう？

【愛機】

スカードエンジェル
スーパースポーツタイプのバイク。赤いボディに天使のステッカーが貼られた、派手なデザイン（参考：スズキ/ジグサー）。元々は祖父がレーサー時代に乗っていた機体。法律スレスレの改造が施された、大変ピーキーなパランスのマシン。「明煌が一人前になったら譲る」との約束をしていたが、祖父の死によって、予想外に早く明煌のもとに転がり込んできた……のだが、両親は明煌がバイクに乗ることを許さなかった。よりによってエンジンを処分され、ハリボテ同然になってしまったマシンは、今も祖父の工場跡で、再び走れる日を今か今かと待っている。
(オープニングあたりで、スクラップの山の中から、ギリギリ動くエンジンを見つける想定)